

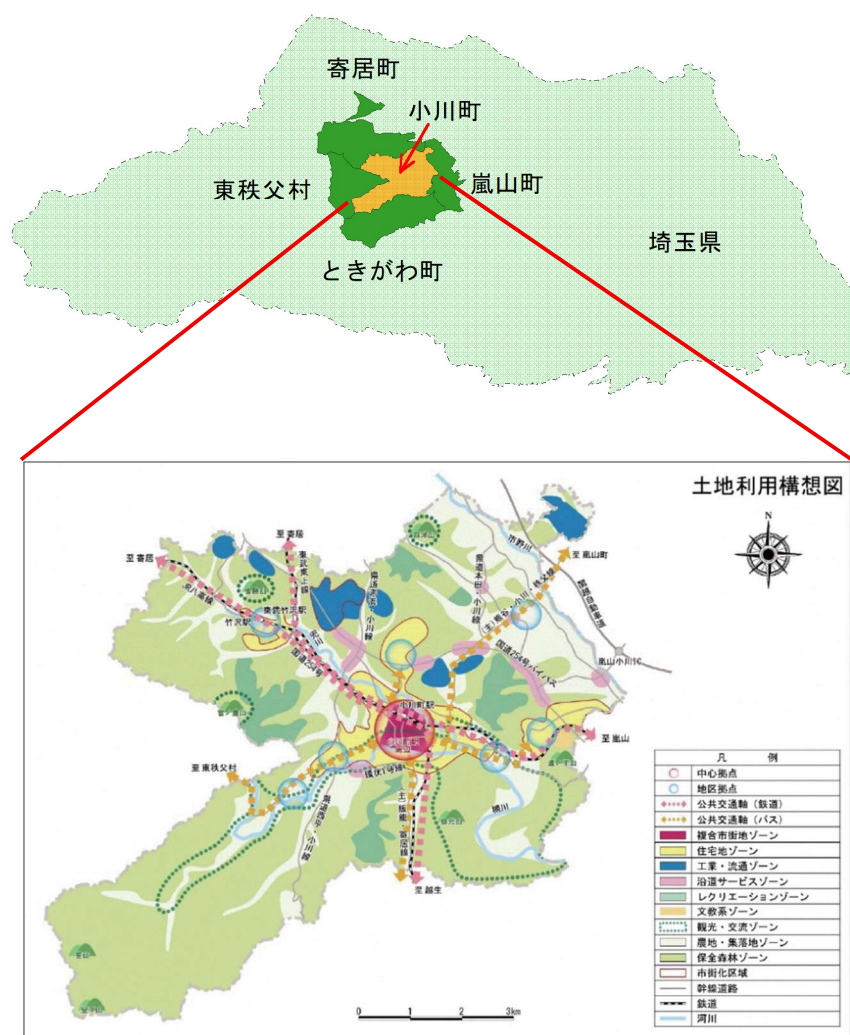
第3章 基礎調査

3.1 本町の概要

3.1.1 地理的、地形的特性

本町は、埼玉県中央部からやや西の比企郡に位置し、南はときがわ町、西は秩父郡東秩父村。北は大里郡寄居町、東は嵐山町に接している。行政区域は東西約 11km、南北約 10km からなり、行政面積は 60.36 ㎢である。本町の中心部は、槻川、兜川に挟まれた区域であり、槻川、兜川に沿って市街地が形成されている。地表勾配は、両河川の上流部から下流部、山地から河川へと純勾配となっており、比較的起伏が多い地形となっている。

本町の概要を図 3.1.1 に示す。



（出典）小川町第5次総合振興計画基本構想（令和3年3月）

図 3.1.1 小川町の位置

3.1.2 土地の用途

令和元年度から令和5年度までの5年間の地目別土地利用状況を表3.1.1に示す。

令和5年度時点で山林が全体の約5割を占めている。経年的に田、原野が減少し、山林、宅地、および畑が微増している。

表 3.1.1 地目別土地利用状況

年度	項目	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他	合計
令和元年	面積 (ha)	335.4	526.8	595.8	3.5	2,706.2	23.8	347.8	1,496.7	6,036.0
	割合 (%)	5.6%	8.7%	9.9%	0.1%	44.8%	0.4%	5.8%	24.8%	100%
令和2年	面積 (ha)	332.6	526.8	598.9	3.5	2,867.9	23.5	359.3	1,323.5	6,036.0
	割合 (%)	5.5%	8.7%	9.9%	0.1%	47.5%	0.4%	6.0%	21.9%	100%
令和3年	面積 (ha)	329.2	528.9	600.9	3.4	2,913.4	22.7	370.9	1,267	6,036.0
	割合 (%)	5.5%	8.8%	10.0%	0.1%	48.3%	0.4%	6.1%	21.0%	100%
令和4年	面積 (ha)	326.6	531.4	603.7	3.4	2,908.4	21.6	377.6	1,263.3	6,036.0
	割合 (%)	5.4%	8.8%	10.0%	0.1%	48.2%	0.4%	6.3%	20.9%	100.0%
令和5年	面積 (ha)	326.2	530.4	608.8	3.4	2,899.8	21.1	375.2	1,271.1	6,036.0
	割合 (%)	5.4%	8.8%	10.1%	0.1%	48.0%	0.3%	6.2%	21.1%	100.0%

(出典) 埼玉県統計年鑑

3.1.3 気象的特性

本町に最も近い気象庁寄居地点による令和2年～令和6年度の気象概要を表3.1.2、令和3年度の月別内訳（小川町消防署）を表3.1.3に示す。

気温は、5年間の平均値で15.1℃であるが、最高は39.8℃、最低は-9.2℃であり、夏季に暑く冬季に寒い、いわゆる内陸型の気候を示している。

過去5年間の平均降雨量合計値は約1,213.5mmとなっており、ここ5年間の降雨量の総量は令和5年度を除き、概ね1,200mmを超える降雨量となっている。1時間最大の降雨量は年度ごとのばらつきが大きく、最大で令和4年度の92.5mm/hrとなっている。

また、令和3年度の月別内訳では、6月から10月まで雨量が100mm/hrを超えており、夏季に雨量が多く、冬季に雨量が少ない傾向を示している。

表 3.1.2 気象概要

年度	気温 (℃)			降水量 (mm)	
	日平均	最高	最低	総量	1時間最大
令和2年	14.8	39.2	-7.3	1,360.0	35.5
令和3年	14.6	37	-9.2	1,244.0	28.5
令和4年	14.6	39.8	-7.6	1,223.5	92.5
令和5年	15.7	39.1	-8.7	956.0	18.5
令和6年	15.8	39.6	-6.5	1,284.0	65.0
10年間	平均値	最高値	最低値	平均値	最大値
	15.1	39.8	-9.2	1,213.5	92.5

(出典) 気象庁 HP 過去の気象データ

表 3.1.3 月別気象概況（令和 3 年）小川消防署

月	気温（℃）			湿度 平均 %	風速		雨量		降雨のあ った日数
	平均	最高	最低		平均	最大瞬間	積算	1 時間	
					m/s	m/s	mm	最大mm	
1月	3.2	16.9	-7.3	70.8	1.1	20.3	33	2.5	3
2月	5.9	21.8	-5.4	61.9	1.7	18.8	43	11.5	2
3月	10.5	24.5	-0.7	71.6	1.6	18.6	101.5	9.5	7
4月	13.6	25.7	2.6	64.7	1.5	17.9	59	11.5	8
5月	18.3	29.1	7.3	79	0.9	15.5	99	12.5	14
6月	21.9	32.7	14.1	86.3	0.7	10.7	123.5	12	13
7月	25.2	35.5	18.5	91.4	0.5	19	291.5	27.5	18
8月	26.3	36.9	18.2	90.1	0.6	12.5	188	13.5	17
9月	21.2	31.7	14.6	90.9	0.5	8.5	107	5.5	15
10月	16.6	29.9	5.7	81.3	0.9	16.7	106.5	11	8
11月	11.2	22.1	-0.6	77.4	0.8	12.8	53.5	11	6
12月	5.7	20.0	-5.9	58.5	1.2	15.7	54.5	8	5

（出典）小川町地域防災計画【資料編】（令和 6 年 2 月）

3.1.4 産業の概要

本町は、長い歴史の中で培われた数々の伝統工芸が、わずかながら今も息づいている。工業についても、伝統工芸である和紙や絹、建具などの製造を中心とした産業が盛んである。平成 21 年にはホンダ工場が進出したため、優良企業の進出による活動が始まり、従業者数、製造品出荷額が増加している。令和元年度から令和 2 年度にかけて製造品出荷額は減少し、事業所数や従業者数も同じく減少傾向にあったが、令和 3 年度以降は増加傾向に転じている。

過去 5 年間（平成 30 年度～令和 4 年度）の工業の推移を表 3.1.4、図 3.1.2 に示す。

表 3.1.4 工業の推移

年	事業所数	従業者数 (人)	製造品 出荷額等 (万円)	前年比 (%)
平成30年	80	2,484	12,239,802	111.6%
令和元年	78	2,374	10,500,369	85.8%
令和2年	71	2,171	9,078,978	86.5%
令和3年	84	2,236	11,171,643	123.0%
令和4年	85	2,181	11,637,185	104.2%

（出典）工業統計調査（令和 2 年まで）
経済工場実態調査 地域別統計表（令和 3 年以降）

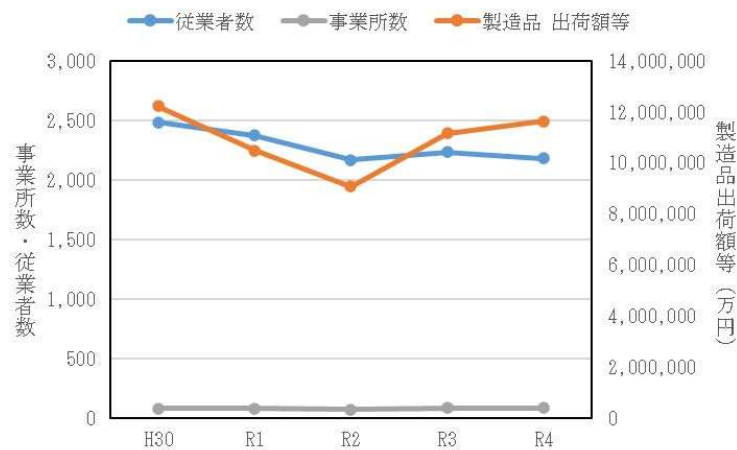


図 3.1.2 工業の推移

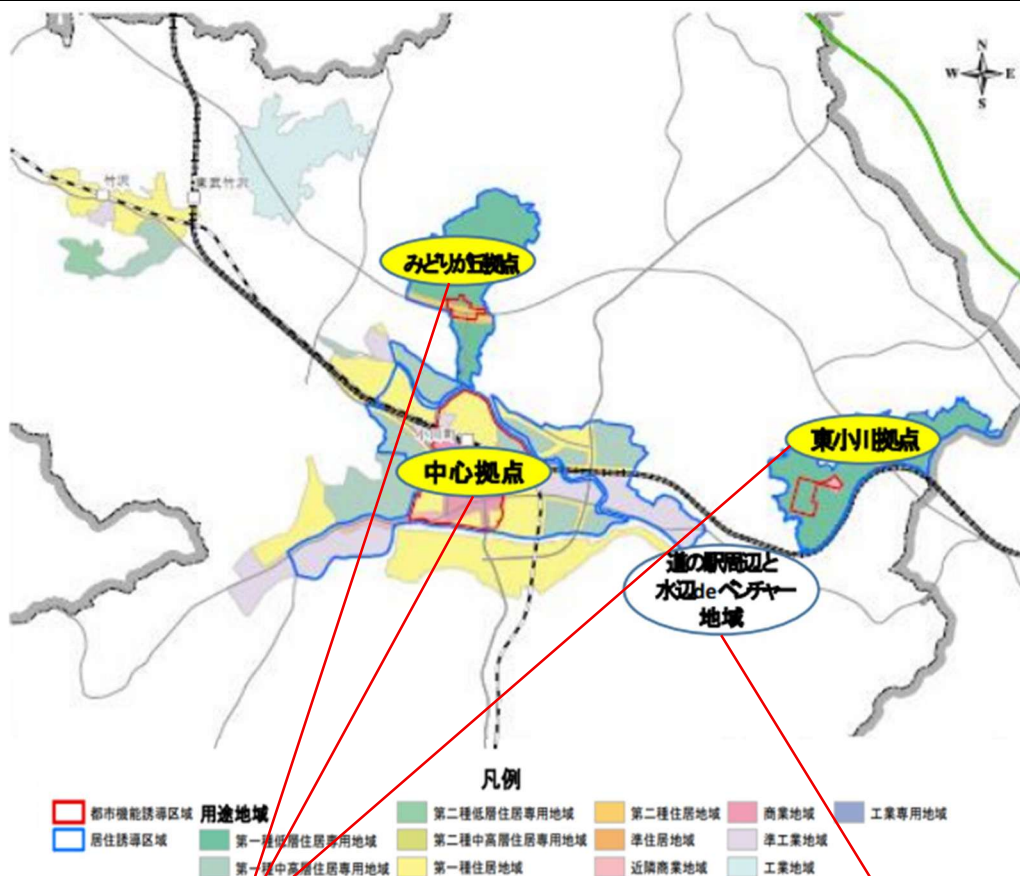
3.1.5 開発計画

「小川町版スーパー・シティプロジェクト」地域まちづくり計画（令和6年9月更新）（以下「R6 地域まちづくり計画」という。）では、高齢化や人口減少の進行などによる地域コミュニティの衰退、空き家・空き店舗の増加等の課題に対応する為、まちづくりの方向性を以下のように設定している。

東小川住宅団地は、良好な住環境を維持しつつ、学校跡地を活用し、町外で暮らす子育て世代のUターンや本町に関心を持つ町外住民の移住定住に繋げるための居住系施設や子育て支援施設、高齢化などに対応した福祉・介護施設を整備するとともに、居住誘導区域内の空き家等の利活用を促進し、多世代が安心していきいきと住み続けられるまちづくりを目指す。また、「道の駅おがわまち」の再整備により、観光拠点としての魅力の向上と、地域住民の交流の場を提供する。なお、避難所として、再生可能エネルギー等を活用した防災機能の強化も目指す。さらに、これらの地域と中心拠点とみどりが丘拠点をEVや電動アシスト自転車で移動することにより、二酸化炭素排出量の削減を目指す。

（出典）小川町版スーパー・シティプロジェクト地域まちづくり計画（令和6年9月更新）

また、中心拠点、みどりが丘拠点、及び東小川拠点で予定されている開発計画、道の駅及びその周辺の開発計画、およびエリア全体で予定されている開発計画を図 3.1.3 示す。



《中心拠点、みどりが丘拠点、東小川拠点》

- ・ 団地内の学校跡地へ必要な都市機能の誘導や、地域住民が集う拠点を整備
- ・ 蓄電池からの電力共有
- ・ 居住誘導区域内の空き地・空き店舗の利活用。

《エリア全体》

- ・ EV、電動シェアサイクルの導入
- ・ ICT 技術を活用した核施設で優待等が受けられるデジタル会員証の導入。

《道の駅及びその周辺》

- ・ 道の駅の再整備と水辺 de ベンチャーチャレンジとの連携による道の駅から川辺へと続く遊歩道の整備。
- ・ 地域住民の新たな移動手段を EV や非接触型充電機能付き電動アシスト自転車による確保。
- ・ 道の駅の防災機能の強化
- ・ 太陽光発電設備等の再生可能エネルギーによる発電と供給。

(出典) 小川町版スーパー・シティプロジェクト地域まちづくり計画 (令和6年9月更新)

図 3.1.3 小川町版スーパー・シティプロジェクト計画図

3.2 前回計画の把握

生活排水処理基本計画等の見直しにあたり、令和2年12月策定の前回計画の内容を把握するとともに、前回計画からの変更点の整理を行うため、次の項目の調査・整理を行う。

【前回計画調査項目】

- ① 前回計画の計画書・計画図
- ② 前回計画の検討で用いた検討単位区域
- ③ 前回計画での整備手法・事業手法

3.2.1 前回計画の整理

前回計画（目標年度：令和7年度）の整備方法別目標を表3.2.1に示す。また、前回計画における構想図を図3.2.1に示す。

表 3.2.1 前回計画（令和2年12月策定）の目標

項 目	令和7年度（目標年） 人口(人)
流域関連公共下水道	14,517
農業集落排水事業	1,555
合併処理浄化槽	12,135
計	28,207

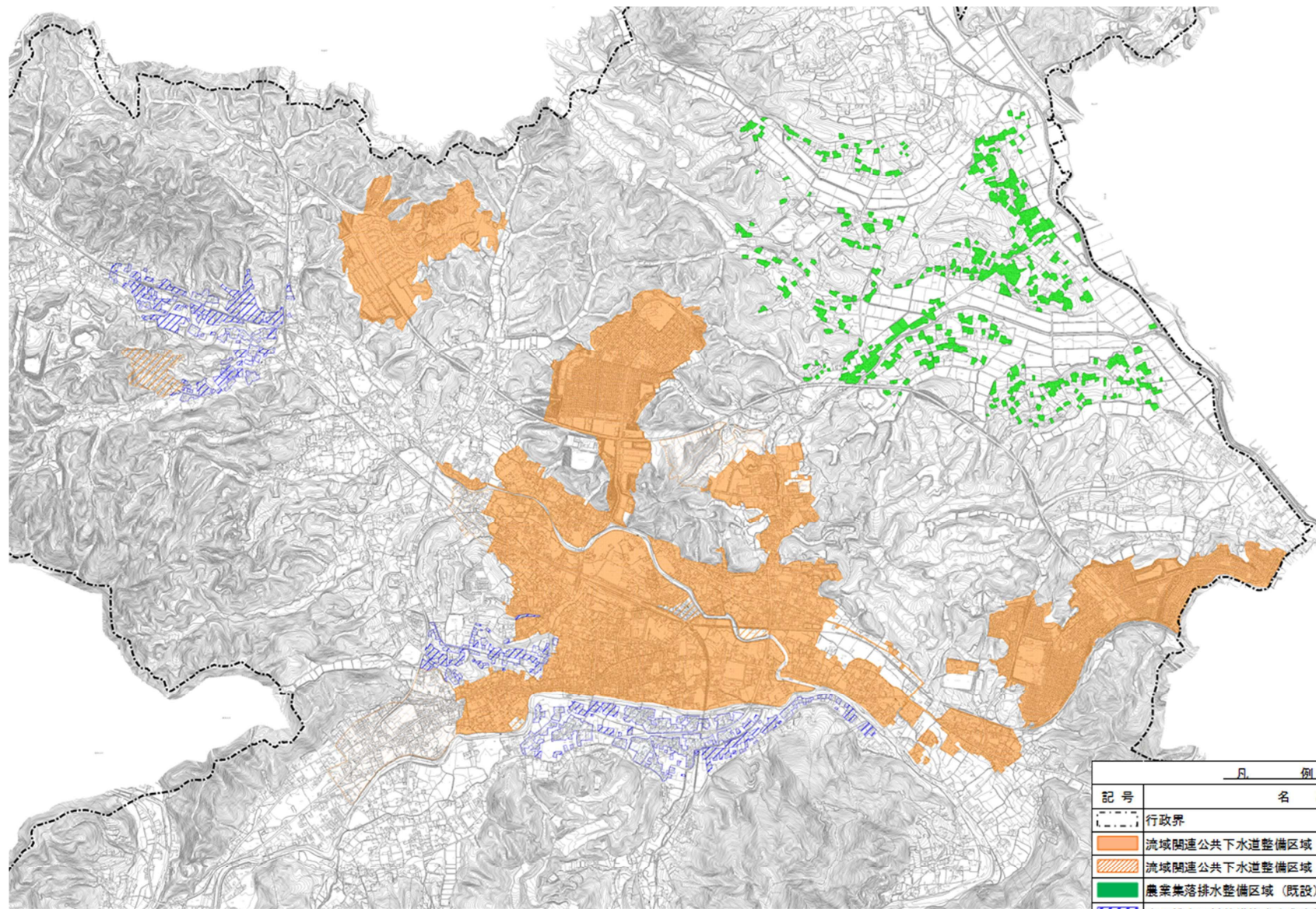


図 3.2.1 前回計画の計画図

凡 例	
記 号	名 称
	行政界
	流域関連公共下水道整備区域（既設）
	流域関連公共下水道整備区域（計画（R7まで））
	農業集落排水整備区域（既設）
	浄化槽市町村整備推進事業実施区域
	上記以外の区域：浄化槽（個人設置型）

3.3 各種生活排水処理施設関連計画の把握

(下水道計画、農業集落排水事業整備計画、生活排水処理基本計画等)

生活排水処理基本計画等の見直しにあたり、下水道計画や農業集落排水事業整備計画、浄化槽市町村整備推進事業等の各種生活排水処理施設の関連計画と整合を図る必要があるため、計画の概要や実施状況について調査・整理を行う。

【生活排水処理施設関連計画 調査項目】

- ① 計画区域
- ② 計画処理人口、計画処理水量
- ③ 終末処理施設の位置、処理方式

小川町における生活排水処理施設関連の事業は、市野川流域関連小川公共下水道事業(以下、下水道事業という)、農業集落排水事業であり、町全体についてこれらの調査・整理を行う。

3.3.1 市野川流域関連小川公共下水道

本町では、平成5年度に市野川流域関連小川公共下水道として、事業認可を取得し、事業に着手した。現在、全体計画は目標年度が令和31年度、計画区域面積約508ha、人口7,900人、事業計画は令和11年度を目標年度とし、計画区域面積約501haとなっている。市野川流域下水道の終末処理場の放流先は、滑川町大字月輪字窪田であり、一級河川市野川の学校橋上流0.3km地点である。現在の処理方式は、オキシデーショディッチ法である。

小川公共下水道の概要を表3.3.1、計画区域を図3.3.1に示す。

表 3.3.1 小川公共下水道事業の概要

	全体計画	事業計画 (R6.3 届出)
事業着手年度	平成5年度	
供用開始年度	平成10年度	
目標年度	令和31年度	令和11年度
排除方式	分流式	同左
計画区域面積	507.9ha	501.4ha
計画人口	7,900人	12,500人
計画汚水量 (日平均)	3,280m ³ /日	4,800m ³ /日
(日最大)	3,950m ³ /日	5,860m ³ /日

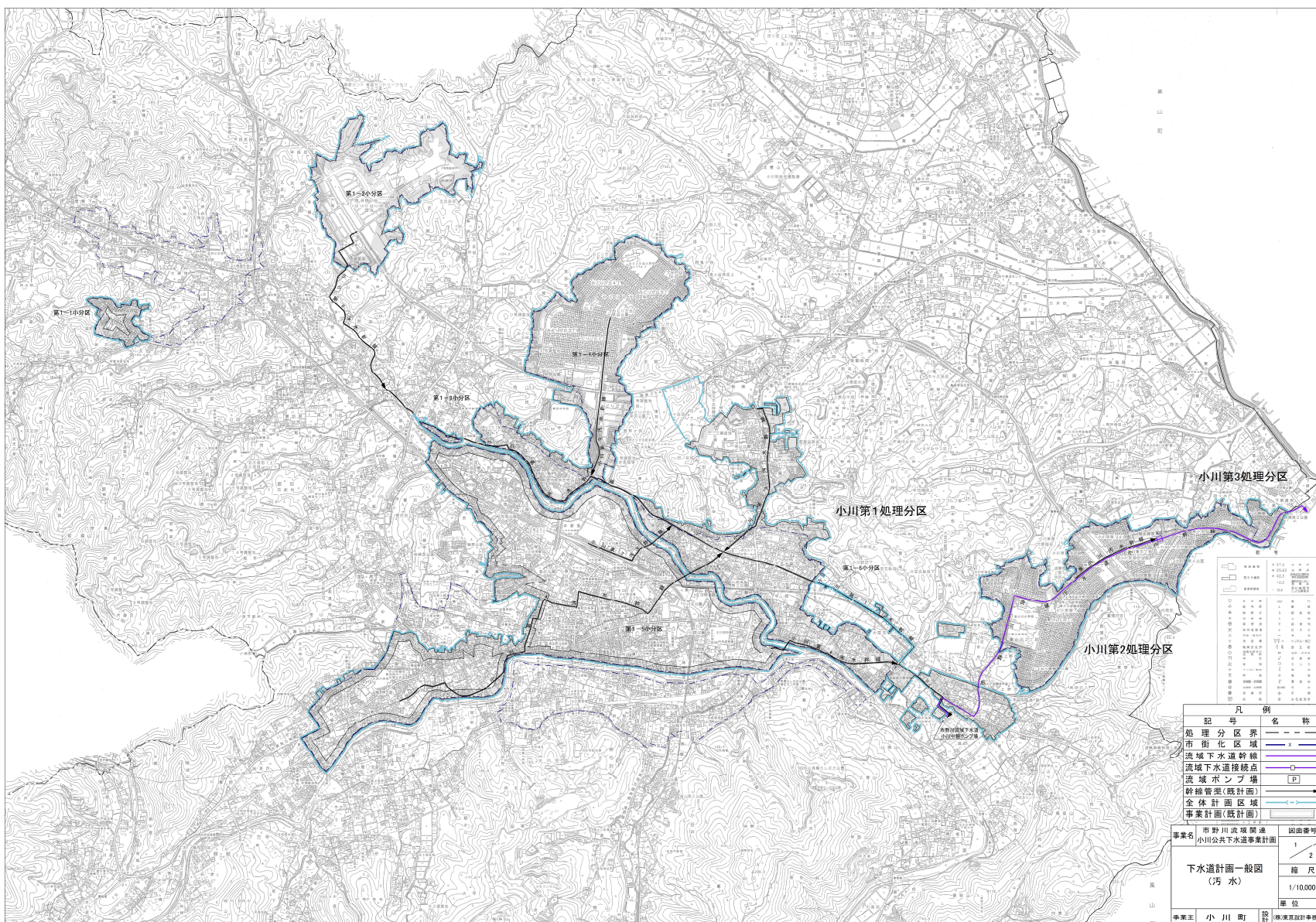


図 3.3.1 下水道計画一般図(汚水、令和6年度提出)